

ミニレポート vol.55

平均寿命と「三大疾患」の関係



ウチヌノ人事戦略事務所 社会保険労務士 内布 誠

平均寿命と「三大疾患」の関係

◆男女ともに過去最高に

女性は前年よりも0.18歳延びて85.99歳、男性は0.19歳延びて79.19歳。日本人の平均寿命が、男女ともに過去最高を更新したことが、厚生労働省が発表した平成19年版「簡易生命表」で明らかになりました。

◆世界トップクラスの平均寿命

平成19年版「簡易生命表」は、平成19年における死亡状況が今後変化しないと仮定したときに、各年齢の者が1年以内に死亡する確率や平均してあと何年生きるかという期待値などを指標によって表したものです。そのうち、0歳の平均余命は「平均寿命」として捉えられ、保健福祉水準を総合的に示す指標として活用されます。

平成19年に生まれた赤ちゃんのうち、65歳まで生きる割合の推計は、女性で93.3%、男性で86.4%。75歳以上では、女性で85.8%、男性で70.8%。さらに90歳以上となると、女性で44.5%、男性で21.0%となります。

日本人の平均寿命は、世界トップクラスです。女性の平均寿命は23年連続で世界一となりました。また、男性も、今回2006年の2位からは後退したものの、

3位となっています。

国際的にみると、女性の2位は香港の85.4歳(2007年)、3位はフランスの84.1歳(2006年)です。また、男性の1位はアイスランドの79.4歳(2007年)、2位は香港の79.3歳(2007年)となっています。

◆三大疾患との関連は

厚生労働省の人口動態・保健統計課は、「日本人の三大疾患である、がん、心臓病、脳卒中の患者の治療成績が上がったことで平均寿命が延びた」と分析しており、今後もこの傾向が続くとしています。

厚生労働省では、特定の死因が克服された場合の平均寿命の伸びも試算しています。がんが根治できるようになったり、発症しなくなったりした場合、女性で3.01歳、男性で4.04歳、平均寿命が延びるとされています。同じように、心疾患が克服された場合の伸びは、女性が1.65歳、男性が1.55歳、脳血管疾患では女性1.15歳、男性1.06歳となっています。また、三大死因のすべてが克服された場合、女性は7.12歳、男性は8.25歳、平均寿命が延びることも判明しています。

地方の医師や小児科医などの不足に悩む我が国において、順調に三大疾患の治療成績が上がっている現在の医療体制をいかにして維持し、さらに充実させていくのか、今後も注視する必要があるでしょう。